

仙台北部工業用水道事業 工水濁度低減処理施設の運用を開始しました。

麓山浄水場で整備を進めてきた工水濁度低減処理施設が完成し、5月21日より処理施設の運用を開始しました。産業基盤を支える工業用水の安定供給を確保するため、適確な施設管理に努めて参ります。

事業経過

仙台北部工業用水道は、鳴瀬川上流の河川水（以下「原水」という。）を門沢取水堰より麓山浄水場へ導き、場内の工水配水池より仙台北部中核工業団地群等に立地する企業へ原水を供給しています。

しかし、近年は豪雨等の増加に併せて原水高濁度の発生頻度が増加しており、企業へ良質な工業用水を安定的に供給するため、平成30年度に麓山浄水場内において新たな処理施設の整備に着手し今年4月末に完成しました。



工事経過写真



掘削完了後
(R1.10月末)

躯体建造状況
(R2.7月末)



施設完成
(R3.4月)

施設概要

当施設は、濁度が低い通常時は稼働しませんが、大雨等により原水濁度が上昇した際は施設内へ原水を導き、薬品を注入して濁度成分を凝集沈殿させ、濁度の低減を図ったのち用水を供給します。

なお、施設内に沈殿した濁度成分は泥状になり堆積するため、排泥ポンプにより場内の天日乾燥床へ排出されます。天日乾燥床で水分を除去した泥は、処理施設へ搬出され処分されます。

<計画諸元>

- 最大処理量 25,000m³/日
- 主要施設等 混和池：1箇所、フロック形成池：2池、沈澱池：2池

①薬品貯蔵槽

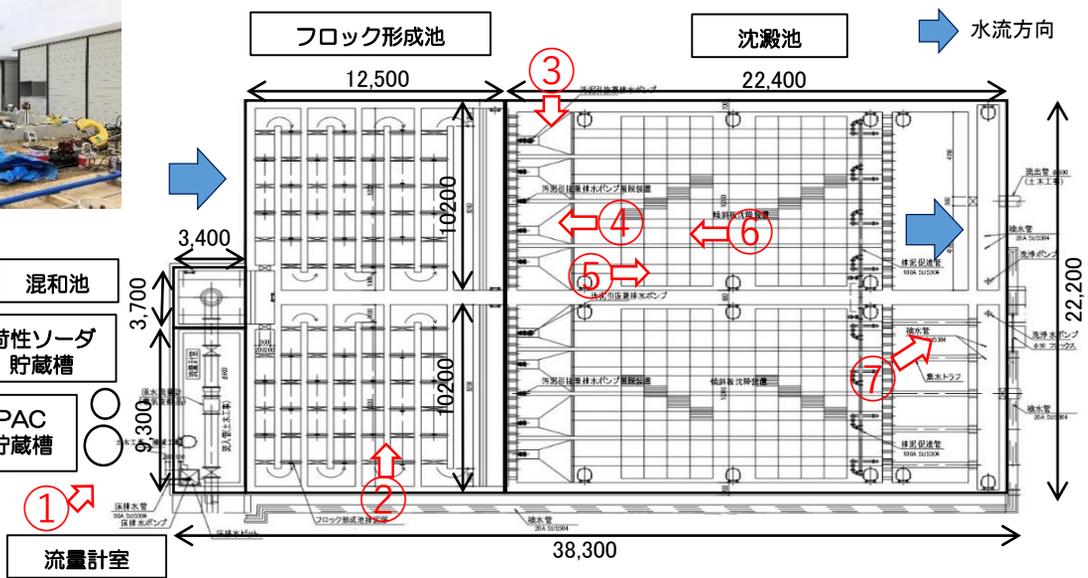


③排泥ポンプ



施設平面図及び断面図・設備状況写真

(延長: mm)



②フロック形成池



④沈澱池整流壁



⑤傾斜板



⑥スラッジ貯留部



⑦集水トラフ

